

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 いぬ  
 ①とどまる ②行く ③急ぐ ④帰る
- 2 たのむ「四段」  
 ①大事にする ②親しくする ③あてにする ④取り計らう
- 3 かしづく  
 ①丁寧に処理する ②大切に養育する ③近くに置く ④心から愛す
- 4 めづ  
 ①避難する ②感嘆する ③見守る ④同情する
- 5 うつつふ  
 ①時が過ぎ去る ②うわさされる ③色が変わる ④消える
- 「B」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 6 とりどりに物の音ども調べあはせて遊あそび給ふ、いとおもしろし。(源氏物語)  
 (訳) それぞれ思い思いに楽器の音色を整えて「」 「なさるのは、とてもおもしろい」。  
 ①言い騒ぎ ②趣を変え ③管絃を楽しみ ④ふざけ合い
- 7 せちによばひければあひにけり。その朝に文もおこせず。夜まで音もせず。(大和物語)  
 (訳) (平中が) しきりに言い寄ったので契った。その翌朝に手紙も「」ない。夜になるまで音沙汰もない。  
 ①読ま ②用意し ③よこさ ④したため
- 8 聞こえぬことども言ひつつよるめきたる、いとかはゆし。(徒然草)  
 (訳) (酒に酔って) 「」ないことをいろいろ言いながらよるめているのは、とても見るにたえない。  
 ①理解でき ②納得でき ③表現でき ④説明でき
- 9 この猫を北面にも出ださず、思ひかしづく。(更級日記)  
 (訳) この猫を北向きの部屋(＝使用人の部屋)にも出さず、心にかけて「」。  
 ①大切に世話をする ②懐かしむ ③見届ける ④ほめたてる
- 10 春は藤波を見る。紫雲のごとくして、西方ににほふ。(方丈記)  
 (訳) 春は藤の花房が波のようになびくさまを見る。(阿弥陀仏が乗って来るといふ)紫雲のようで、西方に「」。  
 ①ぼんやり浮かんでいる ②美しく照り映える ③背を向けている ④たたずんでいる
- 11 大傘一つまうけよ。(落窪物語)  
 (訳) 大きな傘を一つ「」。  
 ①処分しろ ②修理しろ ③準備しろ ④工夫しろ
- 12 我を頼めて来ぬ男、角三つ生ひたる鬼になれ。(梁塵秘抄)  
 (訳) (逢いに来ると)私を「」て(おきながら) やって来ない男よ、角が三本生えた鬼になれ。  
 ①ひとりにさせ ②愛し ③信じ ④あてにさせ
- 13 下簾の狭間の開きたるより、この男まもれば、わが妻に似たり。(大和物語)  
 (訳) (牛車の)下簾のすきまの開いている所から、この男が(車の中を)「」と、自分の妻に似ている。  
 ①見つめる ②訪ねる ③眺める ④調べる
- 14 ならはぬ鄙の住まひこそ、かねて思ふも悲しけれ。(平家物語)  
 (訳) 「」ない田舎の生活は、あらかじめ想像するのも悲しいことだ。  
 ①慣れ ②知ら ③感じ ④好ま
- 15 あはれ今年の秋もいぬめり(千載和歌集)  
 (訳) ああ、今年の秋も(むなく)「」 ようだ。  
 ①やって来る ②過ぎ去る ③感じる ④過こす

15 「」

解答

【新二年生用】 古文単語330三訂版 P 72 ～ P 79

- 1 ( ② )
- 2 ( ③ )
- 3 ( ② )
- 4 ( ② )
- 5 ( ③ )
- 6 ( ③ )
- 7 ( ③ )
- 8 ( ① )
- 9 ( ① )
- 10 ( ② )
- 11 ( ③ )
- 12 ( ④ )
- 13 ( ① )
- 14 ( ① )
- 15 ( ② )